



戦後まもなく創業し、建築現場のプロのニーズに応える設備や建材に金具を提供してきた株式会社水上。明日の住まいや街づくりのために「メーカー」と「商社」の機能を併せもつ同社は、企画開発力と調達ネットワークに物流体制で、アジア諸国を中心に直輸入を展開している。同社では、社内システムのDX推進に先駆けて、セキュリティ対策を強化するためにSophosのIntercept Xを導入した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



株式会社水上

大阪本社 〒542-0082 大阪市中央区島之内2-7-22

社員数 171名(2022年4月時点)

WEBサイト <https://www.mizukami.co.jp/>

ソフォスソリューションズ Intercept X

良いサービスや良いエンジニアとの接点となる
パートナーさんの存在が大変重要です。
そのパートナーさんの提案を信頼してソフオス一択で
Intercept Xを導入しました。

株式会社水上
井上氏



「安心で幸せに暮らせる、明日の住まい、街づくりに貢献するメーカーと商社の機能を併せ持つハイブリッドカンパニー」というブランドビジョンを掲げる株式会社水上。同社は国内の主要な建材メーカーと取引し、住まいのニーズにあった商品を確実に建築現場に届けている。建築資材の仲介業に加え、自社ブランド「ファースト」を開発するなど、ユーザーの声をカタチにする事業も推進している。また同社の情報システム部では、オンプレミスのレガシーシステムをクラウド化するDX推進を加速しているが、先行してセキュリティ対策を強化するために、パートナーから提案されたSophosのIntercept Xを導入した。

ビジネスチャレンジ

「クラウド対応が不完全な統合セキュリティソフトが抱えていた課題」

旧式の統合セキュリティソフトが抱えていた課題について、株式会社水上の情報システム部の井上氏は、次のように説明する。

「以前に利用していた統合セキュリティソフトは、クラウド版を契約していたのに、モジュールの更新では管理者が配布JOBを作成して各クライアントにプッシュする必要があり、社内で配信のスケジュールを組んで対応しなければなりませんでした。パターン

ファイル更新の遅れは、大きなセキュリティのリスクとなります。今の時代は、すべてがITでつながっているのです。中小企業だからといってサイバー攻撃にあわないという保証はありません。当社に来る前は、いろんな事業会社でITの責任者をやっていた経験から、このままではいけないと思い、次世代型のエンドポイント保護への切り替えを検討しました。」

井上氏は高いITスキルを活かして、さまざまな会社の情報システム部門で活躍してきた。その業種は、大手メーカーから外資系や中小企業など多岐にわたり、数多くの会社で著名なセキュリティソフトをすべて使って

きた。その経験から、株式会社水上が旧式な統合セキュリティソフトを使い続けるリスクを深く危惧していた。

テクノロジーソリューション

「パートナーの提案を信頼してSophosのIntercept Xを採用」

旧式な統合セキュリティソフトを使い続けてきたもうひとつの課題について、井上氏は「これまで当社のセキュリティ対策を含めたIT投資は、『価格』を重視していました。そのため、コストを下げるために毎年の更新ごとに価格を安くしてくれる販売代理店に切り替えていました。しかし、この方法では熱意や誠意のあるITパートナーは去ってしまいます。そこで、次世代型のセキュリティソフト導入では、製品を選ぶ前に信頼できるパートナー選びが大切だと考えました」と振り返る。そこで井上氏は、前職で取引のあった株式会社ハイパーの平氏に連絡をとった。株式会社ハイパーは、セキュリティ製品の提供で優れた実績を達成したパートナー企業として

Rising Star of the Year Award 2022を受賞している。井上氏は「良いサービスや良いエンジニアとの接点となるパートナーさんの存在が大変重要です。そのパートナーさんの提案を信頼してIntercept Xを導入しました」と選定の理由を説明する。

導入の成果

「激増するエモテットのサイバー攻撃を防御し、サーバーの保護に次世代型ファイアウォールのSophos Firewallも導入」

2021年7月からIntercept Xの検討を開始した株式会社水上では、検証期間を経て同年12月に全クライアントPCへの完全入れ替えを完了した。導入の成果について、井上氏は「Intercept Xは、デフォルトで定義されているセキュリティ対策が的確で、後から例外処理を追加するとか、ポリシーを修正する必要がないので、運用の手間を大きく軽減してくれました。大企業であれば、セキュリティの専門チームがそこだけをひたすらウォッチしているので、パラメーター

の調整が必要でもいいのでしょうか。ですが、中小企業ではそこまで人手がないので、標準の設定できちんとカバーできる点は、とても良いと思います。Intercept Xを導入しておけば、隔離や駆除が自動的に行われて、後から通知が来るだけなので、情報システム部としては、DX推進など本来のやりたい仕事に集中できるようになります」と評する。加えて「ニュースでも取り上げられているように、2022年の2月にロシアがウクライナに侵攻してから、エモテットを中心としたサイバー攻撃が激増しました。しかし、幸いにも当社は被害ゼロでした。もし、以前の製品のままでと全部すり抜けられて、大きな被害になっていたかも知れないと思うと、ゾッとします」と補足する。エンドポイントのセキュリティ対策強化に加えて、井上氏は古いサーバーの保護にも取り組んできた。その経緯について「近く、古いサーバーで稼動しているシステムは、すべてクラウドに移行していく計画です。しかし、それまでの間は、オンプレミスで運用しているサーバーも保護しなければなりません。しかし、稼動しているOSに対応で

きる最適なセキュリティソフトがないので、ハイパーの平さんと相談して、次世代型ファイアウォールのSophos Firewallを導入することにしました。サーバーとネットワークの境界をUTMで保護することで、クラウドに移行するまでの安全性が確保できると考えています」と井上氏は説明する。

今後の展望

「良い人とテクノロジーを見極める
目利きのセンスが大事」

井上氏にSophosのIntercept XやUTMを提案してきた株式会社ハイパーの平氏は「現在はサーバーの保護にUTMを活用されていますが、Intercept Xと自動連携するSynchronized Securityを実現できるUTMの導入も提案していけたらと考えています。Synchronized Securityならば、3時間はかかっていたウイルスの隔離や駆除の作業が8秒で終わります。これまで以

上にIT部門が、本来のシステム業務に取り組めるようになると思います」と話す。井上氏は「現在は、オンプレミスの基幹システムをクラウドに移行するなど、全社システムのDX推進に取り組んでいます。そのため、クラウド化の全体像が見えた段階で、次のセキュリティ対策を検討していきたいと考えています。ただ、今後は様々なサービスがマイクロサービス化されていくので、組み合わせでの利用が主になります。その中で、専門家のいない中小企業は、古くからの付き合いのあるベンダーに頼らざるを得なくなります。より最適なセキュリティ対策やDXを中小企業が実践していくためには、同じサービスを利用しているユーザ企業同士の連携が不可欠だと思います。そうしたユーザーコミュニティをソフォスさんやハイパーさんに主催してもらえたらと願っています」と語ります。

